

りて、

かつをぶしを、すこしぬるま湯へひたして置いて、  
 取あげてあらつて、其上の白い所を出刃庖丁刀で  
 削りおとして、かんなにて上つらをかきて、すて  
 、其あとの正身をけづるのです。

そしてけづ、たのを、湯の煮え立た泡のたつた  
 中へいれて、すぐに鍋をぬろして、泡をすくひさ  
 つて、絹で漉してかすをさつて用ふるのです  
 右のだしで味噌をといて、煮立て、よもぎを入  
 れて一煮え煮たて、次に豆腐をさええ形に切て入  
 れて、直に鍋をぬろして、椀にもるのです。

三つ身綿入羽織

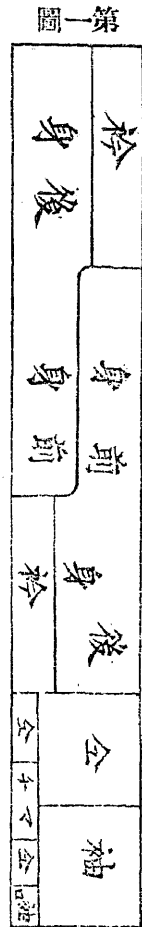
岡本ちか

三つ身羽織は二三歳から四五歳位までの子供の  
 着るもので其用布は大抵常幅一丈四尺位あれば出  
 來ます

普通裁切の寸法

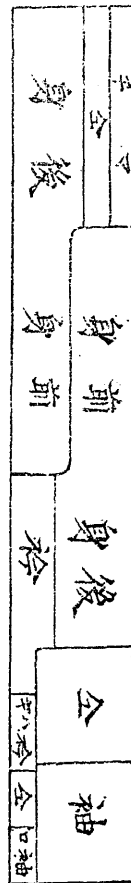
- |                     |           |
|---------------------|-----------|
| 一袖丈 一尺五寸            | 一袖幅 七寸四分  |
| 一後丈 二尺五寸            | 一前丈 三尺    |
| 一後幅 六寸三分            | 一前幅 四寸七分  |
| 一衿肩 一寸六分<br>(内三分廻す) | 一衿幅 三寸一分  |
| 一衿丈 四尺四寸            | 一袖口丈 一尺一寸 |

(圖の方裁 一)



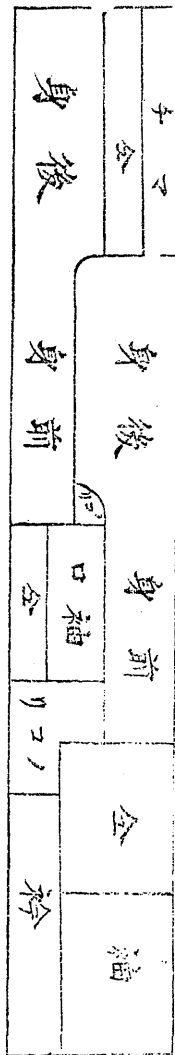
右の裁方第一圖、第二圖、何れにても其子供の體質、切地の如何などによりて都合よろしき方にすればよろしうございませ

圖二第



又右の裁方では片面物の時には片

(圖三第)

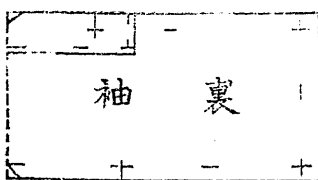
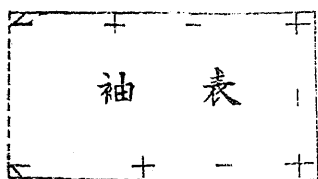


身頃は裏となりて不都合ですから斯様の場合には次の如く裁てばよろしうございませすしかし切れの幅少し廣く一尺位なければ不都合ですが御参考までに記して置きます (第三圖)

- 一 仕立上寸法
- 一 袖口明
- 一 袖幅
- 一 袖丈
- 一 袖附
- 一 身丈
- 一 身八ツ
- 一 前下リ
- 一 紐附肩ヨリ
- 一 身幅前後共
- 一 襠幅
- 一 衿幅
- 一 一寸五分
- 一 四寸五分
- 一 四寸五分
- 一 一尺四寸五分
- 一 一尺八寸
- 一 二寸五分
- 一 七分
- 一 五分
- 一 一寸五分
- 一 上六七分
- 一 一寸三分

一縫標附ケ方

袖 先づ表袖に山、丈、(出來上り寸法より一分長く)袖口明、袖附、袖幅などの標をなし次に裏袖に袖口切を載せ表袖に準じて各部の寸法を五厘位づゝつめて左圖の如く縫標を致します尤も袖口下の縫代は表二分裏は五六分の深さに致しませんと綿をふくむに困ります



一、身頃、襷、衿の縫標附ケ方

前に掲げたる一つ身袖無羽織の時と略ぼ同じ事で行身頃に春縫の標を附けると寸法が少し異なるばかりですから省きます

一縫方

袖、先づ表袖を縫印の通りに縫ひて鉄をかけ次に裏袖に袖口をかけて後縫標の通りに縫ひ其所に鉄をかけます、身頃、まづ前後の胴はぎをして春縫をなし前下りを縫ひ襷を左右に入るとなど總て前の一つ身と同じく致します次に表裏の袖をつけ後綿を入れるのですが其前に袖口と八つ口とに綿を二枚宛位くるみ置く方が便利でございます

縮け方、綿を入れたらば第一に裾口を假綴なし次に袖口八つ口とをくけそれから春縫と前襷との縫目をとち次に衿附の所を假縫なし紐附をつけ後に

袴をつけるのであります、袴の附け方、一つ身の時とおなじ事ですから省す

小さき日記

(三十三年七月生男子)

印東音鳴

二十三日。四五日前より来りし下婢を嫌ひ、顔を見る毎に(バィ)と大聲にて叱り(スィ)と手にて押す形を爲す。

二十九日。親戚よりお歳暮に靴を戴き、初めて履物をはく(タアタ)と喜び、はけどもくすくぬげて仕舞ふ。坊は何歳と問へば、姉さんの真似をして右手を廣げて出す。

明治三十五年一月。

一日。炭を食べ口を眞黒にす。馬大好きにて婆や

に負はれ、馬の美しく飾りて通るを見喜す。二日。朝初めて庭を歩む、靴はさて。

味柑すきにて(ガン)と言ふ、丸のま、渡せば(カ)と云ふ、皮をむけと云ふ事なり。

三日。桃太郎の話喜んで聞く、わざやわくと赤チヤンが生れてと云ひしに(ニヤア)と真似す。

四日。乳呑まんとして(アタ)ト、クント)といふ。

お茶がすきにてお茶とお湯とある時には、必ずお茶でなければ承知せず。

桃太郎さんは何と泣くかと問ひしに(ニヤア)姉さんとはと云へば同じく(ニヤア)。

六日。日本一の黍團子と云ひしに、お重を爲す與へる真似をせしに食べるまねをなす。